

議ス第^六字迄議シ終テ復神ヲ禱ル同夜七^半字
ヨリ十二^半字迄廿二日二字半ヨリ五^半字迄同夜七^半字
半ヨリ十^半字迄何レモ前後ノ式同シ 議長ブラカン
執筆 キウレキナリ

第一條新聞ノ事 三月十八日教師共會議ノ節或
一ノ外國人窓ヲ隔テヒツカニ議論ヲ聞テ此會議唯
タバラシノ惡事ヲ論スルノヤウニ聞取其由ヲ認シ此
日ノ横濱外國新聞ニ出セシ由之全ク傍聞ノ誤ニテ更ニ左様
ノ^ナキ由依テ新聞局ヲ糾シ聞遠^ナラ^シヲ明ニセン^ラヲ議
ス以^テハ新聞局ヨリ誤リ出テ速ニ断リ新聞ヲ出セシ由
第二條バイフル翻譯ノ事 御國內在留ノ教師中ニテ一宗
又^ツ翻譯者ヲ人擇スル^ラヲ議ス^ヘスビテレヤン^ル宗^ニテ

ハ^ハボン^リリ^ホニス^ニテハブラオン^カニクリゲシナンニ
テハグリ^ンイツヒスト^フア^グニテハウリヤ^クスエ^ッール^ル西人
ノ中定^メ度由^テシ^レ氏何^レモ出^テ席^ナキ^ニ定^メ難^キ由^テ此宗
サイ^レスト^ム教師^アレ^シ氏^ニシヨ子^ルニ非^ルニ是^等ノ
事ヲ定^ル能^ハサル由^ナリ○^フラカン^ハボン^西人^ノ翻譯
ニテ馬^可傳^ノ一冊^ハ成^効シ^テ此^度教^會中^ハ旋^亦
致^疾馬^太路^加等^追々^出板^ノ由^ニ
第三條御國內ニ於^テノ教^會規則^ノ事 各宗^各教^會ニ於
テ規則^ノ左^右アリ^追々^日本人^教會^ニ入^ル者^{アリ}之^カ規則
ヲ定^ルニ何^レノ宗^ニヨ^テ然^ルヘ^キカ^其誘^入ス^ル教師^ニヨ^テ一宗
々々^ノ規則^ヲ立^ツヘ^キカ^各宗^合シ^テ日^本一^教會^規則^ヲ設
ク^ヘキ^カヲ^議ス^之ニ^種々^ノ議^論アル^由テ^先ツ^何宗^規

則トモナリ日本ノ一教會ト云フニ改セシ由タムソシヨリ承ル然レ
凡此論ハコノ度確定ト云フニ至ラヌ由ナリ尤此度總テハ
議論決定ノ條ハ横濱外國新聞ニ出ヌ由
第四條教師共即國內ニ於テ諸學校ニ雇シ行クノ可
否ヲ議ス之レハ各々適意自由ニ任スルノニ改セシ由
第五條病院ノ事此義ハ各宗教師共許ニテ是非極
度ト云フニ改スル由 其他細論種々アル由ナレバ何分外
國人斗ノ會議ニテ言語聞取難ク候ニ付右大綱荒端
見聞ノ事情申上候也

壬申
八月廿四日

謀者某謹白

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

九月廿四日

九月廿四日夜ハラシ學校ニ於テ教會之後集議仕
是迄ニ女息日第九字ヨリ十一字迄ハラシ學校ニ集
午後第九字ヨリ三十九番ソニテイスクール元ホシニ集
夕得共ニ已後朝第九字ヨリ十一字迄三十九番ニ集
晚餐ヲテモリ其後ラシ學校ニ集リ會中互ニ教法
ノ意味ヲ語り夜第九字ヨリ九字迄ヒヤルソシ學校ニ
集ルト申事ニ改シ奉リ
公會施金ノ下是迄金二百元ノ毎月首ノ安息日
ニ集メ未夕得共ニ已後人々毎月入高ノ十分ノ一ヲ以
出金致スルニ相替ス奉リ

長老執事ヲ別ニ撰舉スルノ此義ハ重テ下ニ
會中洩ナリ相訛致シ度ニ付此度不承ノ人モアル

當月十七日辰殊更ニ會議ヲ開キ會中ノ入札ヲ以テ撰
舉致スト申フニ交ス候此度別ニ長光執事ヲ撰ビ兩
人ヲニ致ス候所以ハ追々タルソシテ東京ニ集リ教會ヲ
分テス候由就テハ小川廉之助モ東京ニ引越ス候故横濱
長光無之相成ニ付今一人別撰致シ置度由執事ノ義
ハ從前中尾録郎相勤居候得共同人六月七日ヨリ
東京ニ引越ス候旨執事代進村漸相勤居候風
同人モ五六日中ニ歸國致シ候由依之横濱執事ヲ
別撰シ亦尾録郎ヲ其テ、東京ノ執事ト致四度
由テ此儀ニ十七日夜入れノ上決定シ来十月首安息日
ニ授命致シ候筈ニ候也

四日安息日如例朝第九字ヨリハラシニ進子校ニ集リタル

ソシ来テ説教十字迄午後第三字ヨリ二十九番ニテ説教
是ニ晚餐ヲ守五字迄夜第七字ヨリビヤルソシ進子校ニ
集リ候昼夜共相カハラズ盛テ事ニ候也
先般擬恭西人上書ヲ馮シテ書書ニ此度開成所ノソレニ
下リ年馮ノ書ヲ出ス之レハ不日ニ外國新報ニ出板致ス
由ナリ
四日前集リノ時即タルソシノ由ニ二三日前ノ日々新聞
ニ耶模教割セスレテ四箇カヨヒト云説アリ此新聞ヲ
横文ニ譯シ外國ノ新聞ニ出ス筈ナリテ夕曾テ聞
此教法ヲハ置テ向ハスト云政府ノ思召ノ由先公然
開宗モ同様ニ真ニ喜フヘキナリ云云
右荒増ノ事情不取致申上リ候也

九月五日

謀者某謹白

エスワレラ愛シテス、オウ聖書申シテス、彼シニ子供中、

信スレハ屬ス、ハイエス愛ス、ハイエス愛ス、ハイエスアリスオウ聖書申ス、

エスワカタメニ、天ノ御門ヒラキ、ワカツミユルシ、ソノキニヨリ

ハイエス等

エス愛スイツモ、ワレヨフヒトヲモ、ワカニ病氣助ケニ、御座ヨリ下リ

ハイエス等

エスワカ生涯中、ワカツバ居テス、ワレ死ストテモ、ワレラ天ニトモナ

ハイエス等

ヨキ土地アリテス、ダイソフ遠方、尊者榮華ニミツ、日出ノヤフ

ア、カレウイク、主救者ホメル、名譽ケ高ク、讚美セヨ、

ヨキ土地キタル、早々ココヨモフエツテヌ、ソフヨカロフ、ア、

ワレウレシ、羅ラモユルシ、主汝トモニ、カイワイアロフ、

ヨキ土地スベテ人ヒカル、天父カモツテ、アイキヘ又、アハ
天ニハシレ、御褒美トリテ、日ヨリスクシ、光明アコフ、

右ハ女度ハラシハツビホイスト云、歌ノ中ニ音律調子ヲ
合セ和読ト直譯シ、婦女子ハ童ヲ誘引ス、為ニカク
直訳再稿、上出板致ス由也、

カ
中
四
十
九
号

去八月二十日、ソングイ公會、説教ノ席、説教在州

名解リ中、^イ前住ノ社人ラシキ者アリ、説教終時

教師、一礼ヲシテ曰、中村某ト稱スル者、此度

教部省ノ命ヲ奉シテ南境ニ出張スルヤリ、未タ

外國ノ教ヲ知ラサル、今ヨリ時々来テ諸教師ニ

面謁致シタシト、教師ハボン曰、何事ヲ来リ玉ヘト其人

去、後教師笑テ曰、知先日、嚴島ノ説教ヲ見物シ

度、思ヘトモ日本ノ神ト頭ヲサゲル、甚嫌ニテ、故

ヤナシトヨフト思ヘトモ、試、行テ聞ク、今日日本ノ説



教、規則モ何モヤキ故ニ人皆心ロクニ午ヲ敵クモ
アリ頭ヲ俯スモアリ和共ニ頭ヲサゲルニモ及ハズ然ルニ
今ノ教部省ノ役人ニ此座ヲ一同祈ル時ニ頭ヲサ
ゲテ真神ヲ捧ミニシテ誠ニ快キヲデアノ役人ハ
早ヤ我等ノ神捕ノ手下ニナリニシテ追々ト教部
省ノ役人カ皆此真神ニ頭ヲサゲル捧ニナリニシヨ
故ニ物モ今ヨリアノ役人ノ来ルヲ喜ビニス云

壬申年七月...
カレキ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

別紙ハ静岡中村敬助ノ作シテ擬泰西人書
ノ一編ヲ教師プロニ撰文ニ訳シテ活版セル
モノナリ、原本ト訳本ト由々間違アリ、又
活版ノ間違モアルニ似タレバ其伏テ取
リ、コノ一篇ヲ教師共大ニ賞玩シ幸ヒ
此度日本便館皆墨利堅ニ滞留ノ
事故速ニ此書ヲ送り、米ノ政府ヨリ

公便ニ對談ノ節此書ヲ以テ日本人此宗ヲ
開クコトヲ欲スルノ証トスヘシ今迄日本政府
イツモ虚言ヲ以テ外函ヲ欺クニハ日本人民
此宗ヲ開クコトヲ喜ハズト云フハ皆信義ニ
違フト云フニナリマス○五月中旬ニハ
日本政府ヨリ又米國ニ別ノ公便カ行
ト申テ其時迄ニ此一篇布カ米國ノ教

師中ニ廻リテ教師中ヨリモ日本開宗ノ
コトヲ米ノ政府ニ願フヤフニナリマセテ今
日本滞留ノ教師中ヨリモ昨年願書ヲ
出シ置^キミシタ日本人民ノ斯^カ開宗ヲ
好^ミニスルコトヲ政府ガ許サヌト云ハ甚悪キ
コトナル人民ニ此宗ノ信スルコトノナラヌ
不^レ慙ノコトヲアリマス横濱ニハ公會ノ

中間已ニ二十人ニ近キホト出来テシタ。又
此次ノ日曜日ニ婦人三人洗礼ヲ受テス
筈ナリ。日本ニテ婦人ノ受洗ニ此度カ初
ナリ。神探モ嘸ホ喜テ下リマセス。

○此頃米國ノ教師二人ありテシタ。西京ニ
永住シテ弘教スル由ナリ。

○先達テ教部省ガ出来テ坊住サンガ

出勤シタトシテ。是ニ甚此宗ノ坊テ
アリ。スシカシ日本政府ニ坊住サンテアリ
好ミマセヌ故格別ノ坊ニナリマヌ。

○先達テ米國ニテ日本大使ヲ天主堂ニ
招キマテ時行カシテ故ニ大ニ評判カ
シタ。西リナリ。シカシ日本政府ノ此宗ノ嫌フ
コトハ此事ヲ知シシタ。米國ノ政府ヨリモ

此事斗リテアリ答メマスナラバ此宗ノ為ニ
却テ悪クアリセフカトモ思ヒマス

○先達テ魯國ノミニーストんカ米國ニ滞留
ノ時ニ信義ヲ違フコトガアリシニ米ノ
政府ト魯ノ政府ト應接數度ニカサナリテ
遂ニ魯國カ退キシタ此度日本政府ト
ノ應接モ甚六ヶ奔事テアリセフツマリ

日本が退キセフ

○五月四日日曜日受洗ノ人名

- 本田某
- 北原某
- 小川妻キン
- 大坪妻スマ
- 通年 定二郎妻
- ソコ

右五人

○英國ノ新聞ニ乘ル西洋ノ八月ニ英語ニ
コメットト稱スル彗星此地球ニ極テ近接
シテ過ヘシ依テ五大洲中彼彗星ノ過脈ニ
當ル國ハ全國ノ人民ヲ擧テ轉地セシ
ナルトイフ云々近來倫敦府ノ天文臺ニ在テ
彗星行脈ノ俵ヲ管理中ナリ已上

五月

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

横濱新聞

教師バラノボイニ小川某アリ深ク拜シ
著作ノ書耶蘇系圖并ニ十戒注釈ホアリ
小川ノ弟昌之介トシテ者神戶教師グリーン
処、年來住居ノ処当復グリーンノ僕栄之介
ト官ヨリ傳ヤラシ、故昌之介恐テ横濱ニ
来リ兄小川ト共ニバラノボイノ弟子トナル

昌之於グリニノ外ニアリテ兵庫縣大坂事
内海之面ヲ知ルニハ横濱ニ来テ又時々
内海ノ家ニ来往ス

昌之於日内海ハ兵庫ニ在リ時倭兵師ノ
外ニ来レ氏横濱ニテハ兵師ノ外ニ来ラス
今ノ耶蘇ニ追テ皇國ニモ開クヘキ
者ナリトノ持論ナリ

昌之於ハ兼テ洋之於ノ如ク自今モ傳セラル
トアラカトノ恐レアリ今ハ内海日汝恐ル
勿レ我此縣ノ要路ニ在レハ必ス汝ヲ安心
セシメン先達テ天主堂潛仕ノ元助ト云
ヘン者ヲ政府ヨリ物色スルコトアリ即人相
書ユレナリトテ昌之於ニ見セタリ又曰
天主教ノ徒ヤ我ヨリ西復掩セリ況ヤ耶

蘇ノ徒ニ於テヤ、本邦モカ、ハ頑固論ニ
追々止ラセテ子々、眞実ノ文明ニナリセ
ヌトテ昌之存モ大ニ安心ノ由ナリ

長州人澤山某ト云ヘク者、久ク神戶グリニ
ノ処ニアリ、今度クリンノ用事ヲ兼テ洋行
ノ積リニテ横濱ニ来リ、内海ノ家ニ来テ
止宿ス、澤山ハ深ク入邦ノ人ナルヲ知テ止

宿セシムル、亦深意アリト云ヘク

一粟津幸二郎ト当時安ホト改姓コノ者ハ家
師ハボンタムソシ、ハラー三人ノオ子ハボンヨリ
洗礼ヲ受ケタリ、今兵部省出仕

一鱸木幸二郎ト大ニ和々みソセタセ、曾ク
バイフハ屋幸二郎ト称ス、当時品川縣ノ

官負トナル元宮津縣人

松本 不詳

米田女教師。プロエシト日本ノ小児ヲ養ハルノ
老願ヨリ来港由。

女教師 ミスキダ 墨人ナリ。此女ハ小児并ニ婦
人ヲ誘引スルカ先務ナリトテ大ニ尽力セリ。当時
横浜ノ小児其子トシテ者ナクアリ。皆初メ

ヨリイグニシ習フ人トシテ

野毛清水ヤ 於梅 十八文位
太田丁賣止屋 於松 十二文位

年天通り医竹田氏
於アヤ十三文

箱袋
於用十四文

元町一丁目
於加祿九文

元村四丁目
於鉄十文

西栗沼原田泉
於隆十文

馬車屋常盤ヤ
於加志ハ八文位

元町一丁目
於惠伊十文

於七 廿三文

野毛萩原
於鶴 十四文

ハイゲルヲ

右ノ者共日^日執古^ス一^一実^ハ不知^ニ種
書^ヲ讀^ミ女^ノ師^ノ年^ハ随^テ逐^ス一^一嘆息^ス
ヘシ

一太田町箱館屋某ハ者元伊勢ノ僧ナリ

久ク箱館^ニヨリテ天主^ニ参^リノ者ナリ當時港

ニ奉^テヤ^リノ者^ハ入^リ當時洋学^ヲ企^ツル

此者唐物店^ヲ出^シハイゲル^ヲ賣^ル出^ス一

公然恐る、ナシ余モ一本ヲ買求ム

一 當時横濱ノ形勢ヲ一見スルニ、

耶宗、若易、防クヘキニ此ス星ノ教師ハ

バラリゴ、ブル、ブロン、ヲ神トシ、美ノベアリン

又女子の師三四名大、尺カ弘、女子ノ事トス

余ハ土人、洋字ヲ企テ先、ハイブルノ

讀ムヲ急トス、官、コレヲ防クノ色ナシ、

地方官、其人ノ得ル、非スニ、必ス不測ノ大

患アン、呵ム

